



右から「ビッグママ」「O」「katsuO」「ヨガーン」「ヘブン」「壁」などをテーマにしてつくることもあるが、いつもは思考が流れて辿り着いたときにタイトルが浮かぶ。いままでに仕上げたランプは40〜50個



おじいの形見でもある瓢箪の束。恵美さんのランプづくりの原点でもある大切な瓢箪たち。ランプの台づくりは旦那さんの担当で、玄關先の作業場でふたり黙々と作業をする。旦那さんは瓢箪をスピーカーにしてしまう



前号特集で紹介した大富にある「雅屋」は、旦那さんが大工仕事を請け負い、店内には恵美さんのつくった瓢箪ランプが、町家をシェアしている和装作家の庄布団など、京都在住のアーティスト作品があらこちに配されている

京 KYOTIAN I.D.

京のおきばりさん

ランプ&アクセサリー作家

福田 恵美

FUKUDA EMI

【プロフィール】1979年京都市生まれ、3歳から親しむピアノが大好きで、大学では幼児教育を専攻。アジア雑貨店でバイトをする傍ら、アクセサリー作家・MOMOさんの影響でアクセサリーをつくり始める。1年ほど前から瓢箪ランプをつくり続け、2006年には個展も開催

大好きだった「おじい」のために 瓢箪に命を吹き込むランプづくり

祖父がせつせとヘランダでつくった瓢箪たち。ひとつひとつ、几帳面にも底に年号が記されている。見れば、古いもので昭和44年。「おじい」の瓢箪を見つけて、おじいのでつくったものを別のカタチにしてあげたいと思った。のが昨年したこと。37年を経て、孫の手に渡った瓢箪は、見事に美しく生まれ変わる。偶然の一致ではあるが、祖父の四十九日と重なった個展で、ずらりと並びやわらかく明りが灯り、壁や床に不思議な文様を映し出す。この光で送ってあげられたかな」と、穏やかな笑顔。

ミュージシャンとしての顔も持つ彼女は、18歳のときに旦那さんがメンバーの一員である「SOFT」などの音楽に出会い、クラシックの本だった価値観が崩壊。その後、縁あって旦那さんと共に生きることになり、モノづくりをする「大きなきつかけに、ダンナとずっと一緒にいたい」という思いがあったのだとか。「二人で一緒につくれるのがいいなあって」と、彼女にとって、最も大きな影響を与えた人物は旦那さん。旦那さんへの想いもまた、祖父への想いと一緒で瓢箪ランプに込められている。「外に出て人に言われたことができないなあって、家で仕事するしかないなあって（笑）」とは大いなる謙遜と後付けだろう。絵を

描くことが好きで、音楽が身近にあって、大好きな旦那さんとの時間が何より大切だから、辿り着いた瓢箪ランプ。

音楽に合わせながらドリルで穴を開けていると、音と共鳴することがあるという。カーブがビートと響き合う。下描きは一切せず、「行き当たりばったり」に穴を開けていく。何が形作られていくのか、自身にも分からなかったもののキレイな感じとか、気持ちいいし、ハマります」。熱中しすぎると右手がつって大変だが、それすらも厭わぬほどの集中力を持つ。ランプと平行して、アクセサリーもつくりたいし、大好きな雑貨を扱う仕事にも興味がある。もちろん、ミュージシャン「ムチャチヨップス」としての活動も忘れてはいけな。食欲なほど前走してはいた彼女を見て、旦那さんが評した「現在、螺旋状に進化中」という言葉が、驚くほどしっくりくるバイタリテイに脱帽だ。そんな彼女の身近な目標といえば、「瓢箪を見たことのない海外の人に、触れてもらう機会をつくりたい」。昨年の個展で、「メルボルンから来た女の子がすこい感動してくれたのが印象的だった」から。きっと、おじいさんの瓢箪が、これかどんとん海を越えていくだろう。

Information

■作品取り扱い店舗

「てんつく」

■京都市左京区川端二条上ル
☎075-771-5769
<http://www.tentsuku.info>

「ambient cafe MOLE」

■京都市中京区御幸町二条下ル
☎075-256-2038
直接オーダーはメールにて
chancomworks@g-mail.ne.jp
※現在、仕入れと注文多数のため
2〜3ヶ月はかかります。